

## 第2回宗像市地域公共交通会議会議録

日 時	平成25年11月6日(火) 10時00分～11時40分
場 所	市役所北館103会議室
出席者	<b>【委員】</b> 永尾英信、大枝良直、福澤好展、森 正彦、 片山忠和、花田俊六、権田要助、前田 誠、 大嶋長治、早川正史、貫 一字 原田勝子、平田恵美、峯 久子 <b>【事務局】</b> 大隈課長、高山係長 松山 小島
報 告	1) アンケート結果
議 題	1) 赤間コミバスの本格運行について 2) 玄海(神湊・田島)バス路線時刻表変更について 3) ふれあいバス路線について(ゆめタウン、ケアハウス前) 4) 利用促進策について
その他	今後のスケジュール等について

### 1 会長あいさつ

お忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。前回は7月26日に開催しております。今会議も大事な決定事項がございますので、よろしく願います。

### 2 前回会議録の確認

意見なし

### 3 報告

#### 1) 赤間コミバスの本格運行について

(事務局)

ふれあいバス、コミュニティバスでアンケート調査を実施しました。今回は前回の地域公共交通会議でご意見をいただきましたコミュニティバスについても調査を実施しました。

アンケート用紙を2枚、報告書を3部お配りしております。

まず、「ふれあいバスの利用者アンケート調査」については、ふれあいバスに調査員を乗車させた聞き取り調査とバス車内に用紙を設置して回収する調査の際に使用したアンケート用紙です。「コミュニティバスの利用者アンケート調査」については、コミュニティバス車内に用紙を設置して回収する調査の際に使用したアンケート用紙です。ふれあいバスアンケートの内容については、前回の会議でみなさんからいただいたご意見を反映させました。コミュニティバスのアンケート内容については、タクシー事業者様と調整をさせていただきました。

それでは早速ですが、アンケートの報告書の内容を確認していきたいと思います。「ふれあいバスアンケート調査結果報告書（聞き取り調査）」をご覧ください。

1 調査の概要（1）調査の目的ですが、西鉄バス宗像に運行の補助をしている「ふれあいバス」の満足度の調査を行うことで原状を把握し、今後の路線及び時刻表の設定に活用するというので、ふれあいバスの第1系統から第3系統まで、調査員を乗せ、聞き取り調査をしております。アンケートの回収数は304件、調査日については10月19日（土）、21日（月）、23日（水）、27日（日）の4日間で、昨年までは土日と平日1日の3日間でしたが、前回の会議で平日をもう1日増やしてはどうかとご意見をいただきましたので、平日については月曜日と水曜日の2日間を調査しました。

では、調査の内容に入ります。（調査の内容は別紙のとおりです。省略します。）

（永尾会長）

気になる満足度ですが、ふれあいバスの聞き取り調査では79%、アンケート設置による調査では参考数が27と非常に少ないですが58%、コミュニティバスは91%ということで、かなりの満足度を得られていると思います。満足していない理由としては、便数が少ないということがありますし、時刻表が見にくいということについてはすぐに改善できる内容だと思います。コミュニティバスのアンケートの結果、満足度は91%と非常に高く、行き帰りの利用が非常に多い、これはまさに各コミュニティでご検討いただいて利用者の方の意向に沿ったルート・時刻を作成していただいた結果だと考えられます。それではアンケート結果について、ご質問、ご意見がある方はお願いします。

（早川委員）

サービスの面で満足していない理由が「便数が少ない」ということを、どう解釈するかが問題になると思います。便数が多いにこしたことはないですが、他の交通機関との競合等で、ある程度やむを得ないと捕らえるのか、それとも本数を増やせる可能性があるのか、どう考えていくかということがあると思います。

（権田会長）

本数は多くはならないでしょう、財政事情があるので。進めていくのは、早川委員のおっしゃるように、便数や（ルートの）どこをカットするかということだろうと思います。

私どもは隔日（運行）でやっておりますので、毎日運行してほしいという意見はあるが・・・。

(前田委員)

利用のパターンの中で行きだけ乗るという方がいらっしゃいますが、帰りはどうしているのでしょうか。帰りは西鉄バスやJRで帰るといったことが多いと思いますが。

(永尾会長)

事務局、何か情報はありますか。

(事務局)

調査した訳ではないですが、お電話等をいただく中でよくおっしゃられるのは、帰りは西鉄バスが通っているところは西鉄バスを、通っていないところであればタクシーを利用していらっしゃるようです。一台で運行している関係で、どうしても一時間半に一回くらいしか来ませんので、買い物等を短時間で済ませる方はバス停で待つ訳には行かず、早く帰りたいということで、行きだけは安いふれあいバス、コミュニティバスを使い、急がれている方については、帰りはタクシー等に乗って帰られている方がほとんどのようです。

(貫委員)

タクシー側から意見を言わせていただきますと、帰りは買い物の荷物がありますので、タクシーを利用する方が多いと思います。

(峯委員)

利用者が多くコミュニティバスに乗れなくなった場合、応援のタクシーが来ますが、あれは2人しか乗れないのですか。

(貫委員)

4人乗れます。

(原田委員)

乗りこぼしがあった場合に応援のタクシーが来ますが、タクシーのルートについては決まっていないのですか。コミュニティバスが走っているルートを走るのではなく、要望があった場所を走るのですか。

(森委員)

応援のタクシーは必ず、次のバス停でコミュニティバスに乗せることができない人が居た場合に乗せないといけないため、コミュニティバスの後ろを着いて行きます。

(原田委員)

コミュニティバスと同じルートを走り、4人は乗れるということですね。

(森委員)

足の不自由な方が歩いているのでバス停でない場所でバスを停めるというサービスをして、事故等が起きた場合に責任問題になるので、路線を守らなければなりません。

西鉄バスも同じですが、定期路線で運行しておりますので、それ以外の場所を走ってはいけないことになっています。陸運局に申請しているのですが、それ以外の路線を走るのは違法です。

(平田委員)

コミュニティバスの満足度が高いのは、運転手さんの心遣いで乗車している側としては助かるということが理由になっていると思いますが、事故が起こると取り返しがつかないので、運転手さんの気持ちもあるので、決まったことを決まったようにというのは難しいと思います。

コミュニティバスはいつも同じ方が運転されているようですし、乗車している側も同じ方ですので、乗車する側はタクシー感覚で乗車されていると思います。

前回の会議以降は、仲良過ぎない程度にお客様という接し方をしているようですし、様子を見て、今後の対応を考えていかなければならないと思います。

(永尾会長)

私も乗車している側であれば、少し先に行っていただければ家に近いのにとおもいます。しかし、全体の運行を考えると事故等が起こってはいけないので、多少帰りが長くても、バスを運行するという点で、ルールどおりにしていただくことが筋だと思えます。

先程、早川委員にいただいたご意見で、便数を増やした場合の予算の問題や他の公共交通とのバッティング等の問題については、まさにおっしゃるとおりだと思います。現在のバス関係の補填が7千万から8千万となっていますので、これ以上増やすのは難しいと思います。便数を増やすと更に経費がかさみますし、バスやタクシー等の公共交通機関とのバッティングすることになりますので、利用者の方の意見もあろうと思いますが、こういう現状で進めていかなければならないのではないのでしょうか？

(貫委員)

運行形態にも限度がある。ルートの関係や労働基準法の関係で(運転手の)ローテーションを変えていかななくてはならず、複雑化していく。

(永尾会長)

将来の、これからの課題だと思います。

(原田委員)

私としましては、便数を増やすことよりも交通空白地域の交通手段の確保を、先に考えていけたらと思います。

アンケート結果で、買い物や通院で利用される方が多いとなっていますので、現在コミュニティバスを運行している地域については、時間を調整すれば目的地に行ける便は揃っているということだと思います。

交通手段のない地域があると思うので、できればコミュニティバスの便数を増やすよりは、交通手段が行き届いていない地域について考えていけたら良いと思います。

(永尾会長)

それでは、アンケートについては、これで終わりたいと思います。

#### 4 議題

##### 1) 赤間コミバスの本格運行について

(事務局)

赤間地区コミュニティバスの試験運行結果について、報告させていただきます。

(報告の内容は別紙のとおりです。省略します。)

赤間地区コミュニティバスの試験運行の結果、試験運行を継続することに対するボランティア運転手や運行部長の意識は高いものの、満席になった際の積み残しの対応ができないことや、燃料費や人件費等の経費の負担を続けていくことは難しいことから、市による本格運行をお願いしたいと報告を受けています。

これを受けまして、市では本格運行をしたいと考えております。本格運行に向けて、地域公共交通会議で諮る必要のある内容ですが、①運行の態様、②事業計画、③運賃及び料金、④運行主体の4点です。

①運行の態様ですが、平成22年の公共交通会議で10人乗りのワゴン車については、民間事業者へ委託することになっておりますので、赤間地区コミュニティバスについても民間事業者へ委託したいと考えております。

路線についてですが、第1系統は赤間、石丸、陵巖寺、三郎丸団地を経由する路線、第3系統は広陵台1丁目から5丁目、名残、桜美台、田久を経由する路線となっております。1系統と3系統は、火曜日、木曜日、土曜日、第2日曜日に運行します。第2系統は徳重1組、富地原、桜美台、田久を経由する路線、第4系統は葉山、緑町、桜、徳重、桜美台、田久を経由する路線となっております。2系統と4系統は、月曜日、水曜日、金曜日、第4日曜日に運行します。定時定路線での運行を考えております。

路線と時刻表についてですが、今回の試験運行の結果を参考に検討していきたいと考えております。

運行主体についてですが、市街地はふれあいバス、周辺部を10人乗りワゴン車で運行しておりますので、赤間地区も周辺部に該当することからタクシー事業者に運行をお願いしたいと考えております。

車両については資料のとおりです。

料金体系については、現行のふれあいバス、コミュニティバスと同様にしたいと考えております。

まとめますと、①運行の態様については、試験運行時に作成した路線を参考に定時定路線で運行します。②事業計画については、調整は必要になると思いますが、試験運行時に作成した路線を基に、資料にあります車両を使用したいと考えております。③運賃及び料金体系については、市が本運行しているコミュニティバスの料金に合わせたいと考えております。④運行主体については、10人乗りワゴン車で市街地周辺部を運行しますので、タクシー事業者に委託したいと考えております。

検証結果については以上ですが、前田委員から補足等がありましたらお願いします。

(前田委員)

本運行になった際に、7時代など早い便が発生すると思いますが、現試験運行でも8時半の便は利用者が非常に少なく、空車で走っているような状態です。

(それを解消するためにも) 路線変更という問題、赤間駅南口に乗り入れができないかという要望がたくさんあります。朝の便については、通勤・通学を対象としたいわゆる快速バスではないが利用者の少ないバス停はショートカットし短時間で駅周辺までいく路線が組めないかという思いを、我々は持っている。

今すぐできることではないと思うが、課題として、利用者促進の意味では必要ではないかと考えているので、機会があったらぜひご検討いただければと思う。

(永尾会長)

そうしますと、西鉄バスさんとの競合が発生するわけだが・・・。

(福澤委員)

(西鉄バスは) JRの駅にお客様を移送させることで収支をはかっているのですが、そこにふれあいバスやコミュニティバスが入ってくるとなると、どうしても収支を悪化させる事態になる。

我が社としては、反対をさせていただきたい。

また、遠距離の方については、我が社の運賃形態もあるので利用者の方の不公平感が出るのではと思われる。

(前田委員)

今後、路線改正等がある場合で、状況が変わった段階で赤間ではこういうことも考

えていたと頭の隅に入れておいてもらえれば助かる。

(永尾会長)

ふれあいバス、コミュニティバスの原点に戻ると、共存共栄が大前提となる。西鉄バス、タクシー事業者、そしてふれあいバス・コミュニティバスがそれぞれの役割分担でカバーしあって3つがそれぞれ成り立つような方向で考えていくことが必要と考えるので、そこはよろしくお願いしたい。

(森委員)

ふれあいバス、コミュニティバスは高齢者いわゆる交通弱者に対する対策として考えられたものであるから、普通の一般の健康な人をターゲットにすると非常に大きなものになる。何を目的としているか、また20代や30代の歩ける一般の人を対象としていないということをご理解いただきたい。

(事務局)

西鉄バスさんに確認したいのだが、駅の乗り入れ反対については赤間駅南口のみですでに乗り入れている北口はやむを得ないということで良いか。

(福澤委員)

そのとおり。

(事務局)

改めて路線の確認をしたい。田久四つ角から赤間駅南口の路線を消すことになる。

(原田委員)

田久四つ角から赤間駅南口まで、徒歩で高齢者は大変かもしれないが通勤通学される元気な方は平気だと思う。

(事務局)

赤間のコミバスの路線と時刻に関しては、赤間駅南口に乗り入れないということになるので、次回修正した分を提示したい。

(平田委員)

赤間駅南口には、いくつか病院がある。路線バスは通っているが・・・。

(事務局)

赤間地区の意見の中で、赤間駅南口の病院へ行きたいという意見はなかったのか。

(前田委員)

細かい事までは把握はしていないが、希望として赤間駅南口への乗り入れの意見が色々あがってきたと聞いている。

(事務局)

試験運行の中で、赤間駅南口の病院に行きたいという意見が出ていないのであれば田久四つ角からゆめタウン、サンリブの（赤間駅南口に乗り入れない）ルートでお願いしたい。

(平田委員)

赤間駅南口へは、西鉄バスがたくさん通っているので、それでいいと思う。

(永尾会長)

赤間コミュニティバスの本格運行について確認したいと思う。

定時定路線で、第1系統から第4系統まで。ただし、赤間駅南口への乗り入れはしない。使用車両は10人乗りワゴン車。運賃は現在の料金体系にあわせる。運行主体は、タクシー事業者で良いか。

(各委員)

良い。

(永尾会長)

ありがとうございました。

## 2) 玄海（神湊・田島）バス路線時刻表変更について

(事務局)

神湊コミバスの7便について、波止場着時間が、渡船港と同じ時間になっており乗り継ぎが間に合わない場合があるので、その便のみ波止場着時間を5分はやめられないか玄海コミュニティに相談している。結果をもらい次第報告する旨説明。

また、田島コミバスについて荒開市営住宅建て替え工事でルート変更が発生することについて説明。時刻もバス停もかわらないのでこのルートで提案したい。

(永尾会長)

玄海コミュニティの反応はどうか。

(事務局)

会議がまだ開催されていないので何とも言えないが、現在の時刻表で発時間がキレ



イに揃っているのです、それにこだわられたら難しいかもしれない。

(永尾会長)

この件、玄海地区コミュニティの回答を待ちたいと思う。

荒開の変更については、時刻表もバス停もかわらないので問題ないと思うがよろしいか。

(前田委員)

建て替え後もこのルートか？元に戻るのか。

(事務局)

道自体の構造もかわるようだ。建て替えが平成27年の8月までになっておりそれまでには、新しい道での提案をさせていただきたいと考えている。

(永尾会長)

少なくとも、平成26、27年度（の途中）まではこの路線になりそうだということである。

よろしいか。

(各委員)

はい（よろしい）。

(永尾会長)

2) について、承認したいと思う。

3) ふれあいバス路線について（ゆめタウン、ケアハウス前）

(事務局)

まず、ゆめタウンの路線については、ゆめタウン（の店長）から1階駐車場への入りを今年度いっぱいにしてくれと言われている。

影響受けるのは、ふれあいバス1～3系統、南郷・岬地区コミバス。ゆめタウンでの乗降者数が結構多いので、バス停撤去にはならず移設を考えている。

ふれあいバス2・3系統については路線上で移設すればよいと考えているが、それ以外はUターンや待機場所となっているので検討する必要がある。

当初、レストラン街横駐車場を全面無償で借り、今の店長から一部に変更になった。売り上げ単価の高い駐車場でありレストラン撤退もあったので、市に貸せないという話が出てきた。それに従うしかないと考えている。

終点やUターンする場所を確保するか、サンリブ止まりにするか12月に再度公共交通会議を開催させていただき、地元の意見も踏まえ協議していただきたい。

(平田委員)

サンリブ止まりになるかもしれないことは、ゆめタウンの店長には伝えたのか。要するに、ゆめタウン利用者も減るかもしれないということ。

(事務局)

伝えている。今の店長は遠賀店の店長もしており、毎月利用者数を出してくれなどすごく数字にシビアである。

駐車場土地の売り上げ単価と利用者の人数及び売り上げ単価からすると、駐車場として使った方が得だと判断されたようだ。

(平田委員)

だんだん高齢者いなくなるのでは。ゆめタウンは高齢者の利用が多い。

(事務局)

それでも、車で来る方の売り上げの方が高いからゆめタウンとしてはそちらをとりたいたいとのこと。この話は、今年度初めから非公式にあっていたが、今回正式にあった。市としては無償で借りている立場なので、移設するしか方法はないと考えている。

利用者から何故そうなったのかとの問いに、ゆめタウンの事情だと説明すると伝えたいという結論である。

(永尾会長)

確認すると、影響するのはふれあいバス1系統がサンリブ止まりになる可能性があること、2・3系統はバス停移設対応。コミュニティバスは南郷地区と岬地区。岬地区コミバスはサンリブ止まり。南郷地区コミバスは、通過なので移設で対応可能と思うが地域に確認する。

(前田委員)

赤間コミバスも駐車場で転回できないことになる。

(権田委員)

岬コミバスについて、折り返しではなく通過で対応できないか。

(事務局)

通過すると赤間駅南口などで折り返さないといけないので、それが可能であれば出

来ると思う。ただ、コミバスについては、東海短大側駐車場を利用して折り返すことをゆめタウンさんと協議する予定である。

(権田委員)

地元では、ゆめタウンまで行くのがありがたいという声がある。

(原田委員)

Uターンして折り返すだけなら駐車場に入っても問題ないのか。

(事務局)

事故の元になるので、(ふれあいバスは) 駐車場に入ってくれるなどの事だった。

(平田委員)

以前は通り沿いにあった。バス停移設は可能と思う。

(事務局)

横断歩道から離すことなど規制があるので、警察との協議でバス停の位置は決まると思う。

あと、ケアハウス宗像の件がある。

県道高架整備に伴い、路線を見直す必要がある。

次回の12月にゆめタウンの件とあわせて報告させていただきたい。

ケアハウス宗像周辺で折り返すと危険なので、バス亭は残したいと考えているので中央中横の道路を通過して折り返すことも視野に入れて結論を出したい。

(永尾会長)

ゆめタウンとケアハウス宗像の路線変更については次回の12月に結論を出したいと思う。

#### 4) 利用促進策について

(事務局) 資料をもとに進捗状況の報告

- ・PR活動…「バスに乗ろうキャンペーン」として、市広報紙及び各地区コミュニティだよりに掲載。
- ・バス空間の利用…車内広告⇒9月広報紙でも呼びかけた。現在1社が利用している。

作品展示⇒市内児童の防犯ポスター表彰者の掲示を、12月15日の冬休み間の1ヶ月程度実施予定

- ・無料乗車キャンペーン・・・新たな客層の拡充。日曜日の利用が少ないので日曜日を候補日としている。家族利用も狙っている。消費の伸びる12・1月を避けて敢えて2月の第2・4を考えている。この二日にするか一日にするか予算の関係もあるので事務局に一任いただければと思う。
- ・企業との連携・・・現在の利用者の継続利用を狙いとする。期間中に、バス及び商業施設での買い物利用で、何らかの事業者からの割引きをしてもらいたいと考えている。対象施設は、バス路線沿線のサンリブ、ゆめタウン、西鉄ストア、サニーを予定している。現在、前向きに検討いただけるとの回答をもらっている。実施予定日は、1～3月である。

(権田委員)

利用促進で利用者が増えた場合の積み残しタクシー対応は通常通りか。

(事務局)

通常とおりである。

(原田委員)

とても良いキャンペーンと思う。

(前田委員)

無料キャンペーンは二日もありうるのか。

(事務局)

予算次第である。

(権田委員)

広告について、車外もあるのか。

(事務局)

当時の交通体系審議会において、ふれあいバスらしいデザインをした方が良いのではという意見がでた。数千円の広告収入よりは愛着のあるデザインがあった方が良いという意見が出され、今回敢えて車外1ヶ所のみ市の広告を掲載するという方針でやっている。

色々な考えはあるが、広告のないバスが走っているところが多い。  
全部を塗り替えると問題ないと思うが、はり散らかすと見栄えが良くない。

(永尾会長)

まずはこれで一度、やらせてもらいたいと思うがよろしいか。

(各委員)

よい。

(永尾会長)

12月にもう一度開催したい。

12月の16日の週。18日はいかがか。

(各委員)

よい。

(永尾会長)

では今年最後の会議、次回は12月18日の水曜日10時からお願いします。  
本日はありがとうございました。